



Vol.17

レブンカムイ(沖の神)

ゆうことみゆきのふくふくトーク ソンコ de ソンコ

アイヌ文化にどっぷり浸って生きてきた
本田優子(札幌大学副学長)と
村木美幸(アイヌ民族博物館専務理事)が、
その魅力をソンコ(=お便り)形式で
語り合います。

イラスト／安田千夏

ジラ。つまり寄り上がったクジラの肉で、多くの場合シャチに襲われたクジラが海岸に打ち上げられたもの。だから、シャチは巨大なタンパク質の塊を人間にプレゼントしてくれる偉い神さまなんですって。

ギリ」と呼ばれるシャチを象った木板があつて、クジラやサメ、アザラシ、マグロ、サケやニシン等を象った板といナウキケ(削り掛け)が下がつている。「カムイギリ」を祭壇に飾つて、シャチ神がもたらす海の幸の豊漁を祈る際に使つた祭具なのだそう。

偉いシャチ神ですが、クマ神のイオマンテの
ように盛大な送り儀礼はしなかつたんだっ
て。沢山の恵みを与えてくれるのに不思議
だよね。でも、クジラの送り儀礼の際にはシ
ヤチ神のイナウ（木幣）も立てられ、御神酒
とともに唱えられる祈詞にはクジラを授け
てくれたことへの感謝の言葉が滔々と織り
込まれたとのこと。

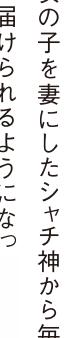
きたよ。
キムンナ
じや、申

アイヌの人たちは、自然界的様々な動植物をカムイ（神）として崇めてきたよね。そのうち、森で最も位が高いのは、キムンカムイ（山の神）と呼ばれるクマ神様。じゃ、沖（海）で最も位が高いのは？——クジラ、という答えが返ってくることが多いけど、実はシャチ。レブンカムイ（沖の神）って呼ばれます。レブンは礼文島の礼文と同じで、沖にいる（ある）という意味。

江戸時代、アイヌの人びとがクジラをカムイと考へていたという記録もあるにはあるけど、おそらくナンバーワンの座はシャチ。どうして巨大なクジラよりシャチかつて?アイヌ社会では、捕鯨をしていた地域はそれほど多くなかったとされ、鯨肉のほとんどは、寄りくり

し焦がれる若きシャチ神が登場したり……人間の女の子を妻にしたシャチ神から毎年クジラが届けられるようになつたというお話をあるよね。

美幸さん、美男のシャチ神はお好み?



1

美男（イケメン）は、
大歓迎ですよ！

1)からの

くじもの

1

レプンカムイ(シャチ神)からの おくりもの



れる特別な印。博物館で「アシペ」を探してみるのもきっと楽しいよね。

さうして何と云ふべきで
一位の高さになるものも珍
しくないのだと。シャチの
背びれはアシペと呼ばれ、シ
ヤチ神を尊ぶ家系に代々伝
わるイトクバ（そいひん祖印）に多く
彫り込まれたとのこと。イ

- 本田優子(ほんだゆうこ)：金沢市生まれ。札幌大学副学長。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
- 村木美幸(わらきみゆき)：白老町生まれ。アイヌ民族博物館事務理事。先住民族アイヌの一人として文化継承活動に努める。
- 安田千夏(やすだちや)：神戸市生まれ。元アイヌ民族博物館学芸員。現在は同館でアイヌ若手育成事業の自然講座講師を務める。